

赤鉛筆と手帳

若い時分から手帳が離せない。人生を歩いていて、時折「かなわないなあ」と思うのは、記憶力のすごい人と出会ったとき。学生のころはもちろんでしたが、長じた今でも先々の予定がカレンダーごと頭に入っているような人には、まさに脱帽。私は、手帳に書いたことすら忘れてしまうというのに。

書いておかないと、とにかく不安。そんなコンプレックスを隠すためか、青年のころから別冊で「夢・アイデア帳」を作っていました。コロナ禍で巣ごもりのある日、書棚に古いそれを見つけ、若い日の自分に邂逅する思いで開きました。28歳、地元の観光協会長に就任したばかりの私はそこに、あれもこれもと、とにかくやりたいことをページを埋め尽くすほどに記していました。読み返して、その7割が達成できなかったことに苦笑しました。今、市長になった私はというと、やはり続けているのです。

毎年買い替える手帳の最初の

ページに、この1年でやるべき課題と夢を列記。加えて、個々の課題の達成目標の期日を書き込む。1番上に並ぶのは市長選で述べた公約の数々ですが、誠に「言うは易く行うは難し」。締切り破りの連続であることは言うまでもありません。

しかし、できたことだけは赤鉛筆（トンボ印の！）で、エイヤツと力強く塗りつぶしていく。「これもできなかったか」と、未達成のものは悔しいが、再度、期日を設定して記入する。ただ、若き日にはできなかったことが、立場はまるで違うのに、今、少なからず実現できていることに時々驚くこともあるのです。

予定通りに片付けられない、次々に飛び込んでくる生々しい課題で手帳が埋まってしまう現実もある。コロナ禍でやりたいこともできない切歯の思いも。それでも、1年の終わりに、否いつの日か、できたら真っ赤な手帳になることをめざして！

シリーズ
第100回

国際大学留学生 お国自慢コーナー ～boast of my country～

マレーシア ジェスリン チャンさん



私の国はこんなところ

私の故郷マレーシアは、人、文化、食、そして天気さえも温かみのある国です。多民族が共存する国で、料理の種類もさまざまあり、インド料理、中華料理、マレー料理にユーラシア料理など、どの料理も味わってみたいです。ですが、私たちマレーシア人は辛い食べ物が大好きなので、辛さにご注意ください。旅行にはサバ州の美しい島、シパダン島がおすすめです。マラッカやペナン島のジョージタウンはマラッカ海峡の歴史都市群で、世界遺産として有名です。首都クアラルンプールのツインタワー周辺ではショッピングや食事、散策が楽しめます。

南魚沼では今までにないたくさんの体験をしました。巨大な八色スイカを初めて見たときは本当に驚きました。母国ではバスケットボールよりも大きなスイカは見たことがありません。八色スイカはとても甘かったです。冬にはスキー場でスノーボードを楽しみました。地元の人と一緒にした稲刈りもいい思い出です。また何といても国際大学の桜並木は素晴らしいです。お花見を存分に楽しみました。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では今までにないたくさんの体験をしました。巨大な八色スイカを初めて見たときは本当に驚きました。母国ではバスケットボールよりも大きなスイカは見たことがありません。八色スイカはとても甘かったです。冬にはスキー場でスノーボードを楽しみました。地元の人と一緒にした稲刈りもいい思い出です。また何といても国際大学の桜並木は素晴らしいです。お花見を存分に楽しみました。

編集後記

民間企業が宇宙旅行に成功しました。「地球は青かった」との名言を残した人類初の宇宙飛行士ユーリ・ガガーリン。民間企業が競う宇宙船開発により、青い地球を見て、無重力を体験する。そんな夢のような話が私たちにも少しずつ近づいているようです。(N.K)

今月の表紙

7月4日(日)、浦佐小学校を主会場に南魚沼市民総合防災訓練が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本年度は規模を縮小して実施しました。児童らは避難訓練のほか、本物の炎と水消火器を使った初期消火体験やさまざまな体験型訓練を通して防災について学びました。

市民の動き 令和3年6月末日現在 ()は対前月比

○人口 54,904人 (-94人) / 男 26,866人 (-27) 女 28,038人 (-67) ○世帯数 20,111戸 (42)